

## 娘の存在が仕事の原動力！

皆様こんにちは。昨年7月に待望の第一子となる娘が生まれ、その際に2週間ほど育児休業等を取得させていただきました。上司・同僚をはじめとした周りの皆様になるべく迷惑をかけないよう仕事を前倒しで進める努力をしましたが、きっと少なからず周りの皆様の負担を増やしてしまったことと思います。改めて、嫌な顔一つせずに育児休業に送り出してくれた周りの皆様のご理解と、「育児休業は絶対取得するべき」という職場の温かい雰囲気感謝します。

育児休業期間中に、家族と時間を共にし、娘の将来のこと、これからの仕事と育児のことなどを一緒に考えました。その結果としてたどり着いた、我が家なりのワークライフバランスの在り方を、娘へのメッセージという形で、紹介させていただきます。

「娘へ。ようこそ我が家に。家族会議の結果、ママはキミと一緒にいる時間を最優先にして、当面は仕事から離れることとなり、パパはこのお休み(育児休業)が終わったら、いつも通り働き始めることにしました。パパと一緒に時間を過ごせるのは、平日の朝と週末がどうしても多くなってしまうけど、パパもできるだけ平日1日は個人的な『育児デー』を設けて、早く帰るようにするので、一緒に夕食を食べたりお風呂に入ったりしようね。平日はなかなか十分に一緒にいる時間が確保できないけど、パパは職場で、若者が、自分の望む仕事、自分が望む働き方が実現できる環境を作るため、日々頑張っているんだよ。将来のキミが笑顔でいきいきと働いている未来を想像してね。」

育児については、それぞれの家庭でそれぞれのやり方があるのだと思いますが、育児休業の取得促進を目指す厚生労働省だからこそ、それぞれの育児事情に応じた選択ができるのだと思います。厚生労働省の仕事は、いずれも育児をするパパ・ママにとって大事なもののばかりです。これからも娘の存在は仕事の原動力となるのだと思います。



人材開発統括官付  
若年者・キャリア形成支援担当  
参事官室室長補佐

はやし みき お  
**林 幹雄**

## 初めてのチャレンジ～子育て・仕事の両立～

入省7年目に長男(現在2歳)を出産し、その後続けて長女(現在1歳)を出産しました。育児休業は3年近く取ったので、仕事復帰するにあたってはかなりの不安がありました。いざ復帰して約3ヶ月になりますが、毎日が怒涛のように過ぎていきます。

朝は反抗期真っ盛りの子供たちを起こしてご飯を食べさせ、洗濯物等の家事もすませ保育園へ送りに行きます。そして仕事に向かい、あっという間に時間は過ぎ、すぐにお迎えの時間がやってきます。今は1時間の勤務時間短縮制度を使っているのですが、なんとか時間内に業務を済ませる様にしますが、終わらない作業があれば係内や上司に引継ぎをお願いします。そして、私は保育園へ子供を迎えに行きます。

子どもを育てながら仕事をする上で心がけていることは、上司や部下とのコミュニケーションを怠らず、自分だけで仕事を抱えないで必ずどの案件も共有することです。基本的なことですが、急な休みを取らなければならない場合、周囲への負担を極力減らすためにも重要です。また、子どもが産まれる前と比較して、格段に時間の制約があるので、周囲の方の協力なしでは仕事がまわりません。感謝の気持ちを常にもつとともに、仕事で返していけるよう日々頑張っていこうと思います。

まだ復帰して3ヶ月ですが、子どもが病気をしたり情緒不安定になったりと様々なことが起こりますが、仕事と子育てを両立されている先輩方の話を聴いたり、相談にのってもらっていたりしていると、不思議と「なんとかやるしかない」「やるだけやってみよう」という気持ちが湧いてきます。

厚生労働省は女性も多く、両立を支える制度が充実しているので、先輩のモデルを参考にしつつ、仕事と育児の両立ができる職場だと思っています。



人材開発統括官付  
特別支援室 障害者企画係長

た な か ま り  
**田中 茉莉**

### 略歴

|       |                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和59年 | 労働省入省                                                                                       |
| 平成16年 | <b>職業安定局 若年者雇用対策室長</b><br>～新設の室長として、ジョブカフェをはじめ新卒、フリーター等の若者の雇用対策の基盤整備に取り組む～                  |
| 平成24年 | <b>職業安定局 首席職業指導官</b><br>～ハローワークの基本業務の責任者～                                                   |
| 平成27年 | <b>職業能力開発局 キャリア形成支援課長</b><br>～キャリアコンサルタント国家資格の創設、働き方改革の一環での社会人の学び直しに資する教育訓練受講支援の制度設計等に取り組む～ |
| 平成29年 | <b>組織新設に伴い現職(平成29年7月現在)</b>                                                                 |

この間、地方自治体(兵庫県産業労働部参事)、労働行政の地方機関(愛知労働局職業安定部長)の管理者も経験



人材開発統括官付参事官  
(若年者・キャリア形成支援担当)

い と う ま さ し  
**伊藤 正史**

### 厚生労働省の人間科学職とは どのような職種なのでしょうか。

端的に申し上げると「人と仕事に関わる政策立案と実行を担う行政官」です。心理学、教育学、社会学をはじめとする人間科学の専門性を活かし、統計学、語学等の付帯する能力も時に駆使して、雇用政策、人材育成政策といった政府全体の最重要の行政領域で、マクロ、ミクロ両面からの政策課題の発見、制度・事業の立案、関係者との調整、さらに業務の仕組みの構築、実行まで一貫した役割発揮が期待される職種です。

### 具体的にはどのような仕事をするのでしょうか。

職業安定局、人材開発統括官をはじめとする本省各部署、また、労働局や関係団体で、●労働行政の第一線機関であるハローワークの職業相談・紹介業務、●若者、高齢者、障害者、生活困窮者等の対象各層の特性を踏まえたきめ細かい就職支援、●企業への雇用管理指導、助成、監督等の政策手段を組み合わせた雇用対策、●職業生活設計やこれに応じた職業選択、能力開発等の実現に導くキャリア支援、●これらと連動した職業訓練等の能力開発促進施策等の分野での政策立案、業務指導等に当たることになります。これら領域は、労働政策の中でも特に重要性が高まっている分野と言えます。さらに、近年、障害者福祉、職場のメンタルヘルス対策など、活躍の場も広がっています。

### 人間科学職の仕事の一つに「政策の企画立案」がありますが、どのように行われるのですか。

国の政策は、法令に基づく制度や、予算等の裏打ちを伴った事業といった形で具体化するものです。労働政策は、国民生活、経済にそれぞれ直結する行政分野ですので、経済環境や、社会情勢の変化の下で、労働者個人の視点(例:失業の予防、再就職の機会確保)、経済活動等企業の視点(例:必要な人材の確保・養成)それぞれの観点から政策課題が生まれます。当事者の声の聞き取り、科学的調査分析などを通じ～現在、EBPM(Evidence Based Policy Making)の必要性が唱えられ、まさに人間科学職の出番と言えます～これを汲み上げ、実施効果、財政効率性を含めた最適の政策手段を選択し、要件・手続きなどの具体的な仕組みを作り上げ、労使等関係者と粘り強く調整する中で、納得感を醸成し、法案であれば国会審議、予算であれば財政当局等との調整を通じ形作られる、さらには政策効果の検証・見直しまでやりきる、息の長いプロセスです。

### 厚生労働省の人間科学職の魅力とは。

厚生労働行政の重要な政策課題に関わる立案や施策実行に中心的役割を担うことは、総合職各区分共通、また、人間科学の専門性を活かすことは各省の人間科学職共通ですが、雇用対策、人材育成対策といった、人と仕事に関わる分野に一貫して軸足を置き、「専門性」を実践的に活かし「深める」ことができること、「詳細設計や実行」まで責任を持って携わり(第一線・関係者との意見交換、データ解析、施策意義のプリゼンなど、多面的な活動を伴うもので、学びと新たな経験の連続です)、広く国民の「役に立った」とその成果や手ごたえを「体感」できること、その過程で省内外の幅広い立場の方々と「信頼関係構築」ができることが挙げられます。

### 最後に受験生へのメッセージをお願いいたします。

自分の場合、特に、若者雇用、人材育成・キャリアに関わる分野を中心に、いわば「スパイラル型」で、基盤となる制度・事業の創設、その見直しを繰り返し行う経験を積み、その過程で、省内外の多数の方々から啓発を受ける、貴重な財産を得ることができました。当職種の職員一人一人が、携わったそれぞれの分野でこうした「物語」を備えています。一人でも多くの方が、こうした厚生労働行政、人間科学職の魅力に関心を持ち、志望いただくことを大いに期待しています。まずは各種説明会に足を運んでいただき、諸先輩の「物語」に耳を傾け、「自分がこの道を選択したら」とイメージを膨らませてみてください！

